

かがわ里海聞き書きプロジェクト 報告書 vol.1

「かがわ里海『聞き書き』プロジェクト」事前ワークショップ

-
- ・ 1回目：2015/9/5（土）サンポートホール高松
 - ・ 2回目：2015/9/19（土）丸亀市民会館
-



山川海に囲まれた香川県は、古くから自然と共生し、持続的に暮らす知恵や技を培ってきました。それらの多くは、机上ではなく、暮らしの中で、親から子、孫へと「体験」を通して受け継がれてきたもの。しかし、そうした世代循環が途切れつつある今、里海名人たちの記憶を、次世代の若者たちへ体験＝人を通じてリレーするプロジェクト「かがわ里海『聞き書き』プロジェクト」が始まりました。

このプロジェクトは「かがわの里海づくり」の一環事業。香川の山川里海を、参加学生とコーディネーターが巡り、里海名人を取材することで、里海の繋がりを発見していくことが目的です。里海名人 1 人 1 人の取材では見えにくい山川里海の繋がりを、次世代を担う参加者の視点で考え、新しい「里海」を見つけていきます。12 月にはフォーラムとして中間発表を行い、2016 年 3 月には一つの冊子としてまとめる予定です。

まずは 2015/9/5（土）にサンポートホール高松で、2015/9/19（土）に丸亀市民会館で、参加者・コーディネーターの顔合わせを兼ねたワークショップが行われました。



プロジェクトに参加しようと思った人たちは、香川県出身もしくは香川県に通学している高校生・大学生・専門学校生。それぞれ「里海づくり」や地元の歴史や暮らしなど土地に根づいた伝統文化に興味があり、自分の視野を広げたいという方を始め、様々な熱意を持った方が集結しました。ライターや編集の仕事を経験したいという方や、放送部や新聞部に属しており自分たちの制作に活かしたいという方も。

今回のプロジェクトでは「聞き書き」という手法を重視するため、今回のワークショップを通じて「聞く・書く」スキルを身につけてもらうことになりました。里海名人にインタビューする際、どんなことを心がけていたらいいか、その技術・心持ちなど、ここで身につけたことを、里海名人への取材で活かしてもらうこととなります。



プロジェクトの進行は、瀬戸内海の島々を紹介するコミュニティ・マガジン編集部スタッフ等がお手伝い。日頃から島の長老たちへの聞き取りやフィールドワークを通じて雑誌制作をしているプロライター等によるフォローが、このプロジェクトの特徴の一つです。

伝統漁法の漁師、木挽き職人、川の郷土料理を伝える人…。お話を聞く「里海名人」とは、長年にわたり山や海・川に深く関わってきた 70 代以上の長老たち。参加者は、名人から生き方や知恵、技術、時には人生そのものを「インタビュー」し、その録音した会話を「書きおこし」、名人の語り口調を生かしながら「文章にまとめて」いく。それはまさに「生きる知恵」を学ぶ場。都市生活ではわからない豊かさや生き方に触れることは、きっと参加者一人ひとりが自分の将来を考えるヒントにもなるでしょう。

